

第48回福崎秋まつり

とき 10月28日(土)

ところ 文化センター・エルデホール・商工会館 他

産業祭 10:00~15:00

- ステージイベント ○展示即売会
- ふれあいミニ動物園
- 福崎工業団地・企業団地等のパネル展示
- パトカー・消防車・写真撮影会 など

入場無料

岩手県遠野市特産品の展示販売

今年も福崎秋まつりの会場で、友好都市「岩手県遠野市」の特産品を販売します。

(参考) 遠野市の名産「りんご」



文化祭 10:00~16:30

- 公民館クラブ活動展 ○特別公演 ○郵便局展
 - 食育フェア
 - JAふれあいコーナー など
- ※催しものによって終了時間が変わります。

問い合わせ先 地域振興課 (内線392)

福崎町スポーツ協会50周年記念事業
福崎町文化協会秋まつり共催事業

第48回福崎秋まつり特別公演 中国雑技・川劇《変面》

時間 15:00~16:30 (14:30開場)

場所 文化センター 大ホール



問い合わせ先 文化センター (☎22-3755)

行楽の秋！ 文化の秋！ 秋のイベントが盛りだくさん♪

第38回八千種研修センターまつり

とき 10月21日(土)・22日(日)

ところ 八千種研修センター もちの木会館

21日(土) 展示発表 13:30~17:00

■いけ花 ■華道クラブ ■書道クラブ

22日(日) 展示発表(21日に引き続き) 9:30~15:00

○模擬店(売切れ次第終了) 10:00~12:00

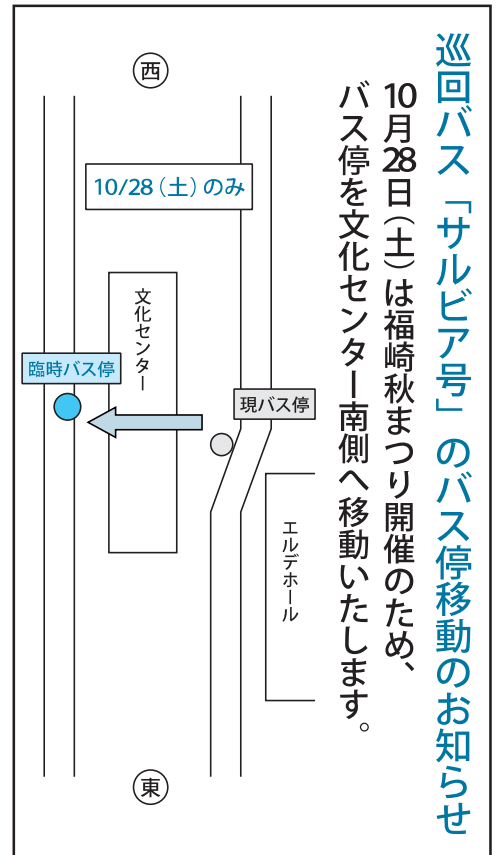
■たこ焼き ■焼きそば ■フランクフルト
■アメリカンドッグ ■ケーキ販売
■お茶席(八千種っ子) ■輪投げ
■スーパーボールすくい ■金魚すくい

○ステージ発表 13:00~

■少林寺拳法 ■大正琴クラブ(琴伝流)
■賀堂流詩吟クラブ ■リズムダンス きらり
■女声合唱団ポーコ・ア・ポコ
■福崎ひるハーモニー ■リリレファ(フラダンス)

○バザー(ステージ発表終了後) 15:00頃~

主催：八千種研修センターまつり実行委員会



秋季企画展

会期 12月10日(日)まで

開催中

「松岡操・たけ展 ～松岡五兄弟を育てた夫婦～」

柳田國男の父・操は福崎で生まれ、幼い頃より傑出した学才で知られ、その名声は伯州（現在の鳥取県）まで届くほどでした。

國男の母・たけは現・加西市北条町の尾芝家の出身で、読み書きはできませんでしたが、その抜群の記憶力と、優れた問題解決能力は、5人の息子それぞれに優れた資質として受け継がれました。

本展では、柳田國男をはじめ、5人の俊英を育て上げた一組の夫婦に焦点を当て、知られざる活躍に迫ります。

会場 福崎町立柳田國男・松岡家記念館 2階展示室

開館時間 9:00～16:30

休館日 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土日は開館）

問い合わせ先 福崎町立柳田國男・松岡家記念館 ☎22-1000



神崎郡歴史民俗資料館 特別展

会期 10月28日(土)～12月10日(日)

「神崎タイムスにみる福崎 ー 広告編 ー」

「神崎タイムス」は、昭和24年～昭和43年にかけて発行された神崎郡唯一の郷土新聞です。

広告は「時代を映す鏡」と称され、当時の流行・習慣・文化などさまざまな情報がつまっています。さらに、神崎タイムスの広告は全国紙と異なり、地域の商店の店名・品名・値段まで詳細な情報を追うことができます。本展では、分析のなかでみえてきた神崎タイムスの広告の特徴のほか、郷土紙ならではの昭和の福崎の情報を読み解いていきます。

開館時間 9:00～16:30 休館日 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日（土日は開館）

問い合わせ先 神崎郡歴史民俗資料館 ☎22-5699



神崎タイムス社旗

歴史民俗資料館 連続講座②のご案内

受講料無料・申込不要

「柳田國男『故郷七十年』を読もう」と題し、大江先生による全3回シリーズをお送りします。

『故郷七十年』には、生まれ育った辻川での思い出や福崎の民俗行事などが多く記されています。講座では、『故郷七十年』がどのような成り立ちでできたかをテーマに、シリーズの第1回目としてお話しいたします。ぜひご参加ください。

演題 『故郷七十年』はどのようなテキストか？ー『故郷七十年』の成立過程ー

日時 11月4日(土) 13:30～15:00

講師 大江 篤さん（園田学園女子大学学長）

場所 神崎郡歴史民俗資料館 2階

共催 園田学園女子大学

問い合わせ 歴史民俗資料館 ☎22-5699（休館日 月曜日（祝日の場合は開館）、祝日の翌日）

「柳田國男『故郷七十年』を読もう」の次回案内

第2回 12月9日(土) 明治時代の福崎の民俗 ー「私の家」「辻川の話」ほかー

第3回 1月20日(土) 柳田國男の民俗学 ー「私の学問」ほかー

三木家からお知らせ

入館無料

特別展示 「ふすまの中から見る三木家」

紙が貴重だった頃のふすまなどの下張りには、帳簿や手紙などの不要となった紙が使われていました。これらを下張り文書と呼び、当時の人々のことが分かる貴重な資料となります。

本展では、三木家住宅から見つかった下張り文書を公開し、ふすまの中から見えてきた三木家の姿を紹介します。



藤本煙津の絵が使用された下張り

会期 10月28日(土)～12月3日(日)
会場 三木家住宅主屋

特別展示関連イベント

■三木家資料保存ワークショップ

要申込

「下張り文書はがし作業」

誰でも簡単にできる下張り文書をはがす作業にチャレンジしてみませんか。

日時 11月12日(日) 10:00～11:30

会場 三木家住宅展示場兼収蔵施設
(三木家住宅東側)

対象者 小学校高学年以上(定員10名程度)

■三木家入門講座⑦

申込不要

「襖からのぞき見る江戸本屋の営み」

三木家の基礎知識を楽しく学べる入門講座です。三木家下張り文書から見えてくる三木家と姫路の本屋さんの交流や江戸時代の出版文化の広まりなど、わかりやすく解説いただきます。

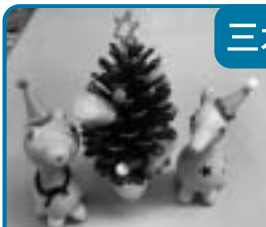
日時 11月12日(日) 13:30～15:00

会場 三木家住宅主屋

講師 石橋知之さん

(神戸大学大学院人文学研究科博士後期課程)

三木家 de 「つのなす工作」



福崎町特産品「つのなす」でキツネを作ります。

申込不要

■日時 11月11日(土) 10:00～12:00

※時間内ならいつでも参加できます。

■会場 三木家住宅

※持ってくるものは、ありません。

申し込み・問い合わせ先

社会教育課(内線256)

第10回 柳田國男検定結果報告

8月6日に、「第10回柳田國男検定」を実施しました。この検定は、柳田國男の功績と改めて向き合い、理解を深めていただきたいという願いから生まれたものです。

表彰式は8月26日に行い、上級編最高得点賞である藤本初美さんには、副賞として旅行券をお贈りしました。



受賞者のみなさんと高橋教育長

最高得点賞

【初級編】高野弘美さん

【中級編】中井武司さん

【上級編】藤本初美さん

おめでとうございます



また、学生受検者で初級編最高得点の岡本眞寛さん、中級編最高得点の中井敦司さんに奨励賞をお贈りしました。

	初級編 (50点満点)	中級編 (50点満点)	上級編 (100点満点)
受検者	15人	10人	10人
合格者	14人	6人	2人
最高得点賞	1人	1人	1人
平均点	42点	36点	62点

※受検者の得点別分布など、詳しくは柳田國男・松岡家記念館ホームページをご覧ください。

大庄屋三木家

よもやま話

第85話



福崎の身近にある歴史を掘り起こそう

地域連携センター共同研究報告

『大庄屋三木家住宅の襖の下張文書①』

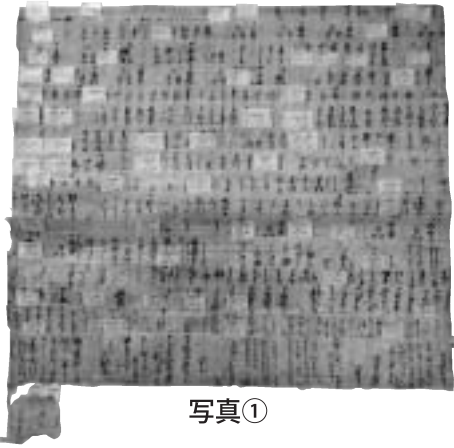
神戸大学大学院人文学研究科 特命講師 井上 舞

福崎町と神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターでは、令和元年より大庄屋三木家住宅の襖の下張り文書の調査を進めています。同年に指定管理となり、現在は宿泊施設として活用されている三木家の副屋・離れには40枚近くの襖が使用されていました。この襖の下にあつた下張りを、一枚一枚剥がしていき、何が書いてあるかを調査しています。

襖の下張りには、不要になつた紙（反故紙）が用いられます。紙は、紙屑屋などから買い取る場合もありますが、三木家の場合には家に保管されていた文書を利用しています。大庄屋の職務に関するものや、人々と交わした書簡、絵の練習など、その内容は多岐にわ

たります。中には、三木家が大庄屋となる以前の、かなり古い時代の文書も使用されています。今後、これらの下張り文書の調査・分析を進めることで、三木家や福崎町域の歴史についての新たな発見が期待されます。

では、実際にどのような文書が発見されているのでしょうか。写真①は、三木家の離れの間仕切りに使用されていた襖の下張りです。襖は防音・防湿などのために、何層にも紙を貼り重ねています。



写真①

これは5層あつた下張りのうちの3層目です。層によって下張りの貼り方は異なります。また使用される文書の種類も変わる場合があります。この襖の場合、3層目には「大庄屋甚右衛門」の名前が書かれたものが複数あり、ここから、甚右衛門を名乗り、かつ大庄屋を務めていた三代善政が、五代通庸の頃の文書が使用されていることがわかります。

内容的には年貢米の割当や人足の手配、廻状（村々に用件を伝えるための書状）などが確認でき、大庄屋の職務の一端を知ることができそうです。ちなみに4層目は3層目と異なり、七代通深の頃までの手紙が中心となっております。

ではその中の一枚を紹介しましょう。写真②は3層目の下張り文書のうちの一枚です。ここには次のような内容が書かれています。

安田作兵衛の孫を名乗る人物が薬を売り歩き、村々で食事を請うこともあると聞いている。もし、この者がいたら、すぐに召し捉えて奉行に届け出なさい。

ここに登場する安田作兵衛ですが、江戸時代中期に書かれた『翁草』という随筆では、明智光秀の配下で、本能寺の変の際に信長に手傷を負わせた人物とあります。また、他の文献には、信長の近習である森蘭丸を討ち取ったとも記されています。山崎の戦いで明智光秀が討たれた後も生き延びて、複数の主君に仕えたとも、古傷の悪化を苦に自害したとも伝えられています。浮世絵の題材にもなっており、それなりに世間に名を知られていたようです。

おそらくこうした伝承を利用し、安田作兵衛の子孫を名乗って薬を売ったり、先祖の武勇伝を聞かせるからと食事の場を設けさせたりする輩が出していたのでしょう。現在でも有名人などを名乗って金品をだまし取る「なりすまし詐欺」がありますが、同じような犯罪が江戸時代にも

あつたのです。

大庄屋三木家住宅では、10月28日から、特別展示「ふすまの中から見ると三木家」が開催されます。これまでの調査で発見された、さまざまな下張り文書を展示する予定です。是非足をお運び下さい。



写真②

浮世絵に描かれた安田作兵衛（『太平記 英勇伝』より「安田作兵衛国次」、東京立図書館TOKYOアーカイブより）





無自覚な言葉

福岡西中学校2年(当時)

豊國志緒

「日本語が上手ですね。」
「元々黒いから日焼けしなくていいね。」

これは日本に住むアフリカにルーツを持った人たちがよく言われる言葉です。普段の会話で何気なく口にする言葉ですが、中には言われた人は傷ついてしまったり、いじめに発展する場合もあります。このような発言や行動は「マイクロアグレッション(小さな攻撃性)」と言われ、海外では長く問題視されてきました。マイクロアグレッションとは、ジェンダーや人種差別、偏見に基づく発言や行動で、無自覚に相手を傷つけることを言います。発言した人は、悪意がないことが多く、相手を傷つけている自覚がないため、皆さんも無意識に相手を差別するような発言をしたことがある

のではないでしょうか。

マイクロアグレッションについてインターネットで調べてみると、こんな体験の記事を目にしました。それは、日本で生まれ育ったアフリカのウガンダ共和国と日本のルーツを持つ高校生M・Aさんの体験です。Mさんは中学校でバスケット部に入部すると、すぐに周囲から「スポーツがうまそう。」と声を掛けられ、チームの戦力として期待が寄せられました。しかし、なかなか上達せず逆からかわれるようになりました。そして、いじめへとつながっていき、Mさんは不登校になってしまったそうです。高校に入るといじめはなくなりましたが、制服で立っているだけで職務質問を受けたり、いろんなところで出身国を聞かれたり、見た目だけで判断されていると感じることは続き、自分は何者なのか、という問いに苦しめられました。

「十七年間日本で育っている

ので見た目以外日本人なんです。それなのにどこに行っても外国人という決めつけで見られている感じがします。一人の人として接してもらいたい、それが一番の願いです。」
とMさんは話しています。
この体験談を見て、私も無意識の内に差別発言をしてしまったことがあるんじゃないかなと

思い、自分の過去を振り返ってみました。小柄な人に対して、「意外と食べるんだね。」と言ってしまったたり、女の子だからこういうものが好きと決めつけてしまったり、普段の生活や会話の中で、無意識に差別してしまっていることを知りました。もし、自分がこのような事を言われてしまったら嫌な思いをするだろうなということを考えてから発言しないといけないと思いました。

Mさんのように、偏見や固定概念にとらわれたことをきっかけに大きないじめに至ってしまったことは少なくないと思います。逆に、ほめ言葉や親切にしたつもりがマイクロアグレッションにつながっていることもあるんじゃないかなと感じました。マイクロアグレッションは、誰もが言われたり、言ってしまったりますることがあるし、悪意がないことが多いので、完全になくすことは不可能だと思います。でも、見た目や思い込みだけでなく相手の気持ちを考え、寄り添って話すことが差別をなくする第一歩になると思います。世界が平等で、誰もが住みやすい社会になる時代が来ることを心から願っています。



高岡小学校3年(当時)
大杉日菜向



福岡小学校2年(当時)
多田 皐



田原小学校1年(当時)
古田悠悟



福岡東中学校2年(当時)
多田颯希

君の声 小さな勇氣
大きな希望
福岡東中学校2年(当時)
藤本 葵

ひとりじゃないよ
話してよ わたしもきつと
力になれるから
八千種小学校6年(当時)
藤本理子

なかないで きみにはたれかが
ついている
福岡小学校3年(当時)
小林一喜

あいさつは 人の心を
明るくする
田原小学校4年(当時)
平島未来翔

人権標語